

## 有明海水産資源回復技術確立事業\*

アゲマキ増養殖技術開発試験（アゲマキ種苗放流技術開発試験）

野間昌平・大庭元気・重久剛佑・野田進治・佃 政則

当センターでは、有明海の重要な水産資源の一つであるアゲマキ*Sinonovacula constricta*の資源回復を目的として、平成8年度から母貝集団の創出に向け、種苗生産及び放流技術の開発に取り組み、殻長8mmサイズまでの放流技術を開発している<sup>1-6)</sup>。今年度は本事業により、母貝集団の効率的な創出試験のため、殻長約2mmおよび8mmの稚貝（以下、「2mm稚貝」および「8mm稚貝」とする）を放流したので報告する。

### 方法

種苗放流は当センターが生産した令和2年度生産群の2mm稚貝および8mm稚貝を有明海佐賀県海域に放流した。

各地先において、過年度の報告<sup>4-6)</sup>に従って、2m×5mまたは4m×10mの放流区画を作成し、放流密度は1,000～5,000個/m<sup>2</sup>とした。

### 結果

令和2年11月から令和3年3月にかけて、2mm稚貝200.5万個を、有明海佐賀県沿岸域の2地先（佐賀市および鹿島市）で放流し、8mm稚貝272.6万個を、5地先（佐賀市、鹿島市、太良町）で放流した（図1）。

各地先における2mm稚貝の放流個数は、東与賀地先で78.0万個、浜地先で122.5万個であり、8mm稚貝の放流個数は東与賀地先で111.3万個、浜地先で82.8万個、七浦地先で27.8万個、たら地先で27.9万個、牟田地先で22.8万個であった。

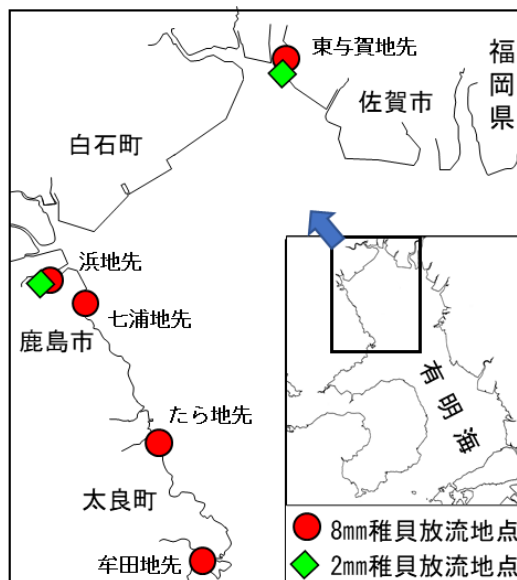


図1 アゲマキの稚貝を放流した地先

### 文献

- 1) 大隈 斉・江口泰造・山口忠則・川原逸朗・伊藤史郎(2003) : 有明海におけるアゲマキ人工種苗の成長と成熟, 佐有水振セ研報. (18), 21-24.
- 2) 津城啓子・大隈 斉・藤崎 博・有吉敏和(2009) : 有明海におけるアゲマキ人工種苗の成長と成熟-II, 佐有水振セ研報. (24), 1-4.
- 3) 津城啓子・佃 政則・大隈 斉・古賀秀昭(2013) : アゲマキ放流稚貝の生残・成長と底質(物理環境)との関係, 佐有水振セ研報. (26), 93-100.
- 4) 佃 政則・神崎博幸・福元 亨・梅田智樹・荒巻 裕・伊藤史郎(2017) : 被覆網による放流後のアゲマキ稚貝の散逸対策, 佐有水振セ研報. (28), 43-45
- 5) 佃 政則・野間昌平・神崎博幸・福元 亨・野田進治・梅田智樹(2019) : 被覆網を用いたアゲマキ放流条件の再検討, 佐有水振セ研報. (29), 5-9
- 6) 野間昌平・大庭元気・重久剛佑・野田進治・佃 政則(2021) : 被覆網を用いたアゲマキ放流手法の高度化, 佐有水振セ研報. (30), 26-30.